



関高・名大でラグビー部。民間企業を経て高校教員に。

◇ 今回は、佐藤淳也さん（名古屋大学文学部）のレポートです！

【はじめに】 私は2008年に関高校を卒業した佐藤淳也と申します。卒業後は名古屋大学文学部に進学し、民間企業で営業やマーケティングを経験した後、愛知県の高校教員に転職しました。現在は世界史の授業を中心に、日々の業務に取り組んでいます。教育実習に関高校でさせて頂いた際にお世話になった先生に声を掛けて頂き、今回この文章を書かせて頂きました。これを読み、進路の決め方などにおいて、少しでも参考になれば幸いです。

【高校・大学時代】 私の高校時代はラグビー部の思い出が中心です。ラグビーは高校より始めましたが、すぐにその面白さに魅了されました。3年生の春の大会を終えた時、本来はその大会で3年生は部活動を引退していきますが、ラグビーを続けたいという気持ちがどうしても抑えきれず、3年生の11月まで部活動を続けました。

部活動と受験勉強の両立は、自分が想像していた以上に厳しいものでした。睡眠時間を大幅に削って勉強をしていた時期もありました。しかし、部活動を言い訳にすることは絶対にしませんでした。「部活動を絶対に言い訳せず、第一志望に絶対に合格する」という強い意志と覚悟を持っていたからです。最終的には、多くの先生方に助けて頂きながら、無事第一志望の大学に合格することができました。部活動も勉強もやりきれたと満足できる高校時代でした。

大学でもラグビー部に入りました。しかし1年生の夏に全治1年半の大怪我を負いました。リハビリは長く辛いものでした。一時期はラグビーをやめることも考えました。しかし、高校時代の思い出から、「一度始めたことを途中で投げ出すことは絶対したくない。必ずリハビリを乗り越え、復帰してみせる」と考え、リハビリに取り組みました。復帰後もなかなかレギュラーになれず、苦しい思いもしましたが、必死に練習に取り組み、4年生の最後の大会では試合に出場し、ラグビーを最後まで楽しむことができました。



大学ラグビー部の同期たち

【社会人時代】 大学卒業後は食品メーカーに就職し、営業部門に配属されました。営業をする中で多くの人に出会い、仕事への姿勢や考え方を知りました。今でも私が仕事をしている際に大事にしていることをいっぱい教えてもらえた、とても大切な時間です。営業は「数字」です。売上目標を追い続けます。楽な仕事ではありません。しかしラグビーを通して身につけた最後までやり通す力をもって日々の仕事に取り組みました。

営業2年目に新入社員の教育に関わる機会がありました。「教える」ということをする中で、思い出されたのが、大学4年生の時に関高校で行なわせて頂いた教育実習の思い出でした。世界史の授業が楽しかったことや生徒の成長していく姿に嬉しくなったことを思い出し、教員への転職を決意しました。そうした中で急遽異動が決まり、マーケティング部門へと配属されました。会社の根幹に関わる責任のある厳しい仕事と教員採用試験の勉強の両立は苦しく、一時期は体調を崩しました。しかし、ここでもやはり最後までやり通す覚悟をもって、採用試験に合格し、転職することができました。

現在は愛知県の高校で、世界史の授業を中心に、日々の業務にあたっています。教員2年目もそろそろ終えようとしています、それでもまだまだ学ばべきこと、学びたいことは尽きません。生徒と一緒にいろいろな事を考えながら充実した日々を送っています。



勤務先の高等学校

【伝えたいこと】 部活動、進学、営業、転職など様々な事を経験し、今感じていることは、強い意志と覚悟をもって最後までやり通すことの大切さです。やり通したその先に思うような結果が出なかったとしても、必ず得られるものはあるはずだと思います。そしてそういったやり通そうとする姿勢を周りの人たちは見てくれています。その姿勢を応援してくれます。結果としてより多くの成果につながり更に成長できる、そんな好循環を生み出せるのが、強い意志と覚悟を伴った姿勢だと私は考えています。

この文章を読んでいる学生の方の中には、勉強などにおいて悩み、迷っている方もいると思います。そんな時こそ目の前のことを最後までやり通して下さい。小さな事でもやり通した経験を積み重ねていくと、最後には道が拓けていくと思います。ぜひ強い意志と覚悟をもって毎日の生活を送って下さい。そしてそれを応援してくれる周りの人たちに感謝の気持ちをもって下さい。

最後まで読んで頂きありがとうございました。何か参考になることがあり、明日からの生活の一助になればこれ程までに嬉しいことはありません。